

## 表紙写真 紹介

### 音と灯りが町を包む 深浦ねぶた復活

かつて子供会が主体となって運行していた「深浦ねぶた」は、コロナ禍や子どもの減少の影響を受け、2019年を最後にその姿を消していました。

しかし今年、町村合併20周年という節目を記念した事業として、「深浦ねぶた」が見事に復活しました。

8月13日から15日までの3日間、色鮮やかなねぶたが夜の町を練り歩き、太鼓や笛の音に誘われて、多くの地域の方々が足を運びました。前日の深浦町海上花火大会と合わせて、久しぶりに町には温かなにぎわいと笑顔が戻りました。

今回の復活にあたっては、有志による実行員会と多くの町民の協力のもと、準備から運営まで行われました。当日は、太鼓や笛の音が響き渡る中、勇壮なねぶたが巡行し、沿道からは温かい拍手や声援が送られました。

このたび復活した深浦ねぶたは、地域の熱意の結晶であり、町の誇りです。そして何より、子どもたちの心に深く刻まれる、かけがえのない財産となりました。



## 題字を 書いて くれた人

# ふかうら



去年に続いての掲載で、漢字よりバランスをとるのが難しかったです。夏休みに転校した友達と海で泳いだことが思い出です。将来の夢は…役場に入りたい。深浦町について…自然が豊かなので残す取り組みをしてほしい

いわさき小学校6年生 <sup>いわもと</sup>岩本 <sup>りあ</sup>莉愛さん  
(岩崎書道教室)

## 編集後記

エルニーニョがどうか、ラニーニャがどうしたとかあまり取り沙汰されなくなり、冷夏という言葉も死語となりつつある。今年も7月の平均気温が、前年を上回るなど、気温上昇に起因する報道が、後を絶たない。

この度、深浦町第三次総合計画が施行される運びとなったが、この急激な気候変動がもたらす影響は、神のみぞ知るところである。この総合計画であるが、机上の空論とならないように、計画実現に注視すべきである。かと言って、我々議員としては、あくまで持続可能を理念として、重箱の隅をつつくような、セコい提言は避けるべきである。町長が変わったからといって、我が町が財政難だということに変わりはないのだから…。

(大川清光)